

## 調査速報

# 道西日本海(檜山海域)スケトウダラ資源調査結果

2013年 11月 7日

北海道立総合研究機構 函館水産試験場 (0138-57-6075)

○2013年10月7日～15日に調査船金星丸を用いてスケトウダラ資源調査を実施したので、結果をお知らせします。調査速報は下記の函館水試ホームページからもご覧になれます。

<http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/hakodate/>

- スケトウダラ魚群は、例年同様に沖合域に分布が多く、すけとうだら延縄漁場となる沿岸域では少なかった。
- 魚群の分布深度は概ね 150～550mで、分布の中心は 200～400m であった。
- 計量魚探による魚群反応量は、一昨年をやや下回った。
- 漁獲されたスケトウダラの大きさは、昨年とほぼ同じであった。
- 漁場周辺の水温は、100-300m は平年並み～やや低く、300m 以深は平年並みであった。

### ● スケトウダラ魚群の分布

#### ・ 水平分布(図1)

スケトウダラ魚群は、例年と同様に奥尻島東側の大成沖、奥尻島南側の奥尻海脚、松前小島堆などの沖合域に分布が多く、延縄漁場となる沿岸域では少なかった。

#### ・ 鉛直分布(図3)

スケトウダラの分布は、概ね水深150～550mに見られ、分布の中心は水深200～400mであった。

### ● スケトウダラの魚群反応量(図2)

計量魚探による奥尻島以南のスケトウダラの魚群反応量は、一昨年(2011年)を約1割下回り、2008年以降は低位で推移している。

### ● トロールで漁獲したスケトウダラの大きさ(図4)

奥尻島東側の大成沖と、奥尻島南の奥尻海脚で着底トロール調査を実施した。両調査点ともに尾叉長40～45cm主体のスケトウダラが漁獲され、この大きさは昨年同調査とほぼ同じであった。

### ● 水温環境(図5)

スケトウダラ延縄漁場周辺の乙部沖、江差沖、上ノ国南沖で水温の観測を行った。表層水温は22℃前後と高水温で、昨年に引き続き平年よりも高かった。水深100～300mの水温は、乙部、上ノ国沖は平年並みで、江差沖は平年よりやや低かった。300m以深の水温は、各調査点とも昨年および平年と同様であった。

### ● 漁況の見通し

計量魚探調査で、当海域の魚群反応量は一昨年来を約1割下回ったことから、今漁期の漁獲量は一昨年並もしくはやや下回ると考えられる。また、漁獲物の大きさは昨年とほぼ同じと考えられる。

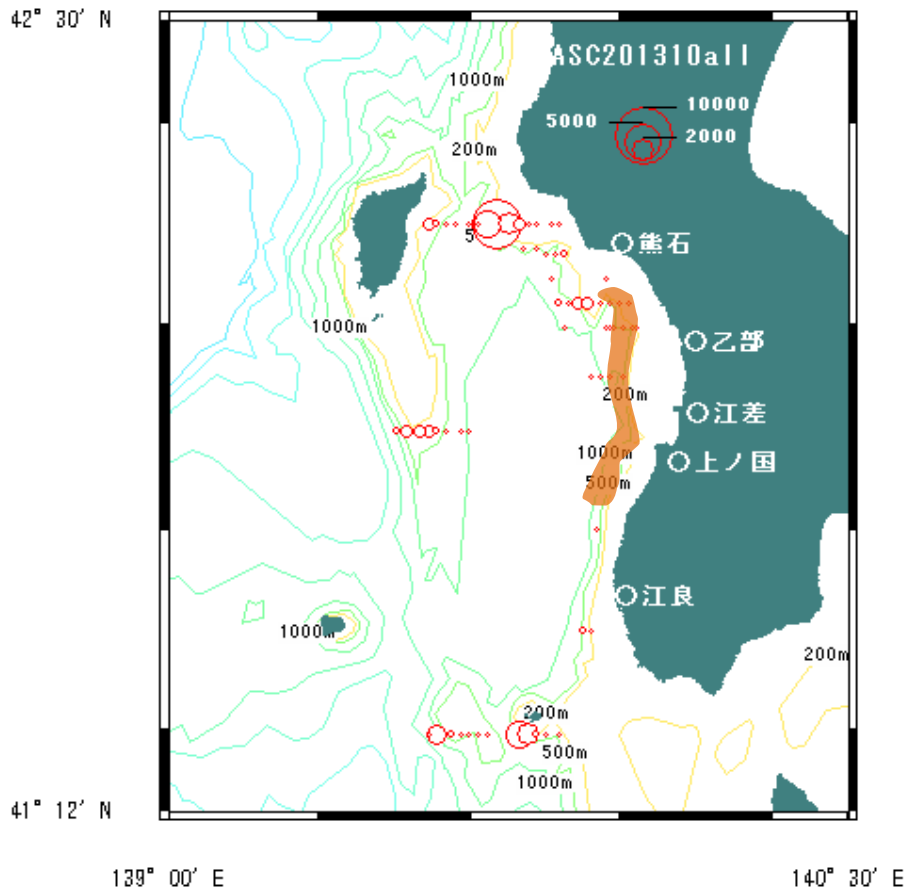


図1 調査海域全体の魚群の水平分布(2013年10月)

○の大きさが魚群反応量を示す  
 ● : すけとうだら延縄漁場

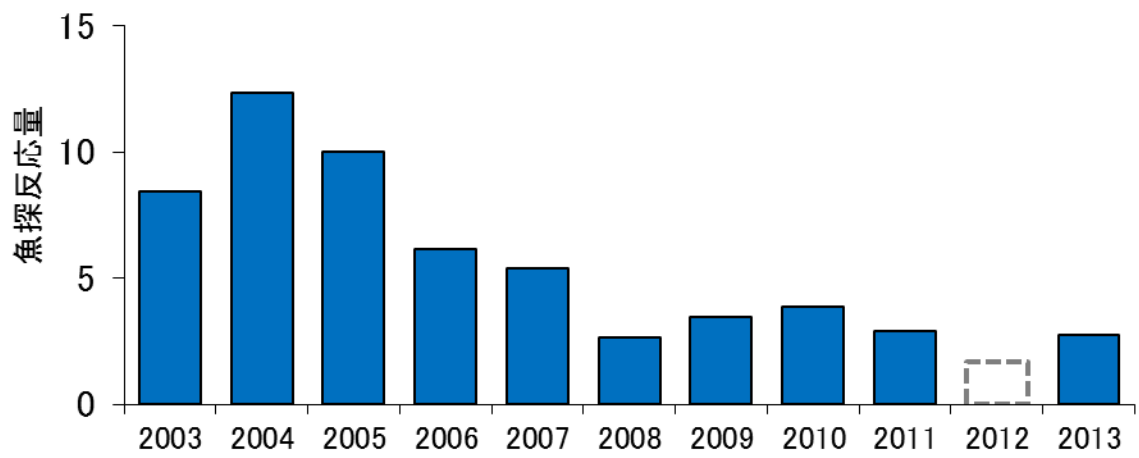


図2 魚探反応量(奥尻島以南)の経年変化  
 ※2012年は荒天による欠測等により過小評価されているため参考値

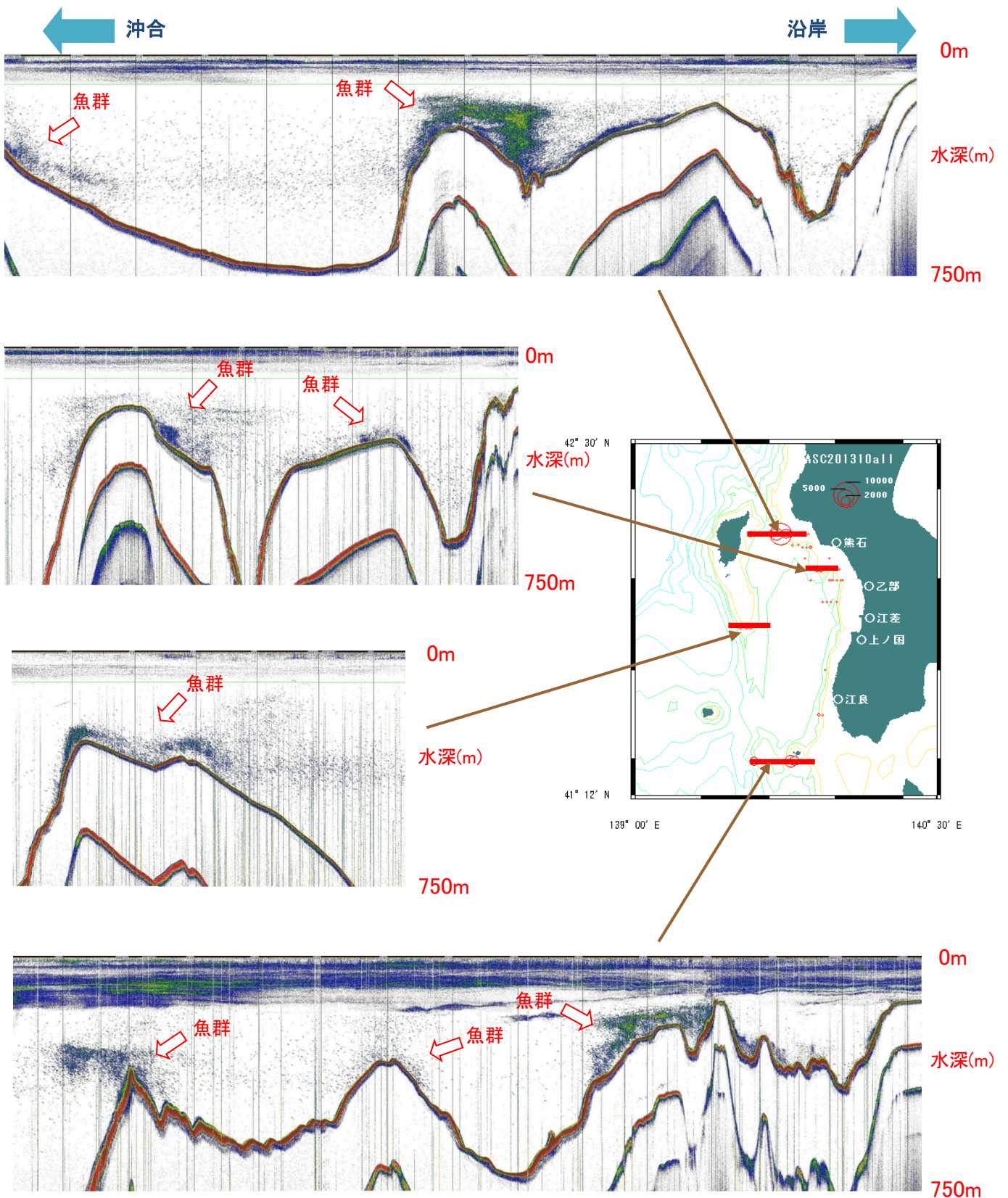


図3 各調査ラインにおける魚群の鉛直分布(夜間に調査を実施)

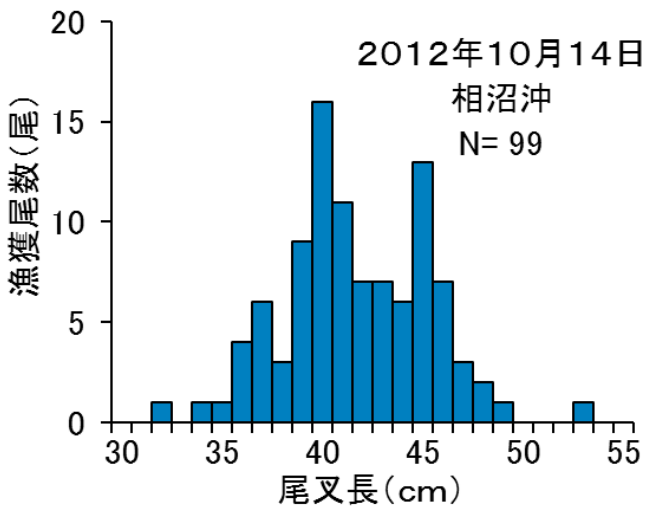
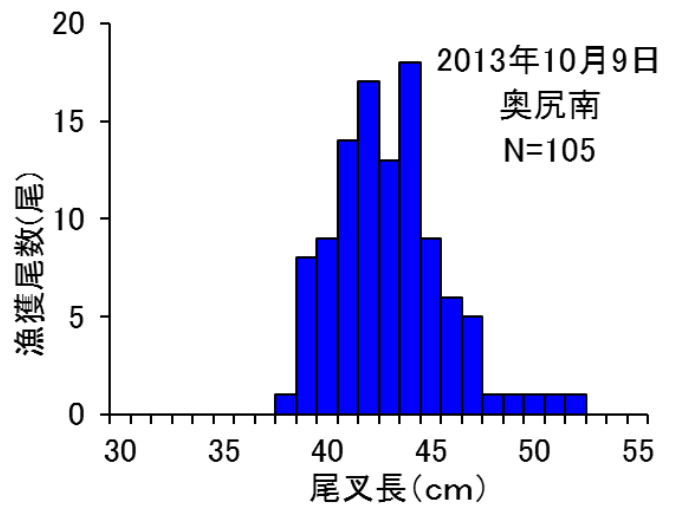
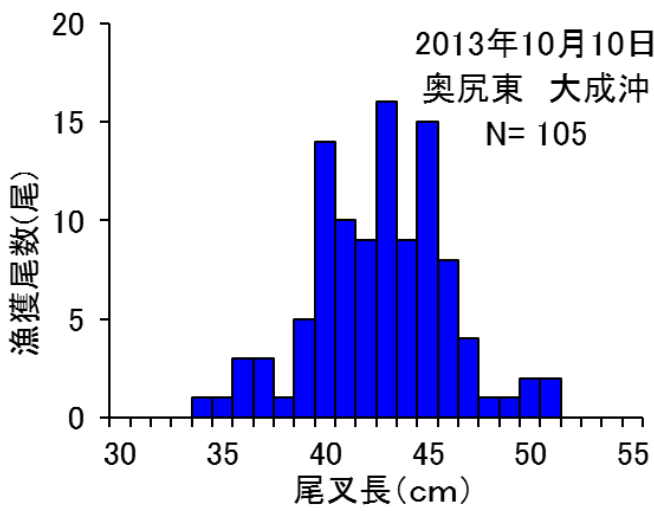


図4 着底トロールで漁獲したスケトウダラの大きさと漁獲地点  
(上 : 2013年 下 : 2012年)

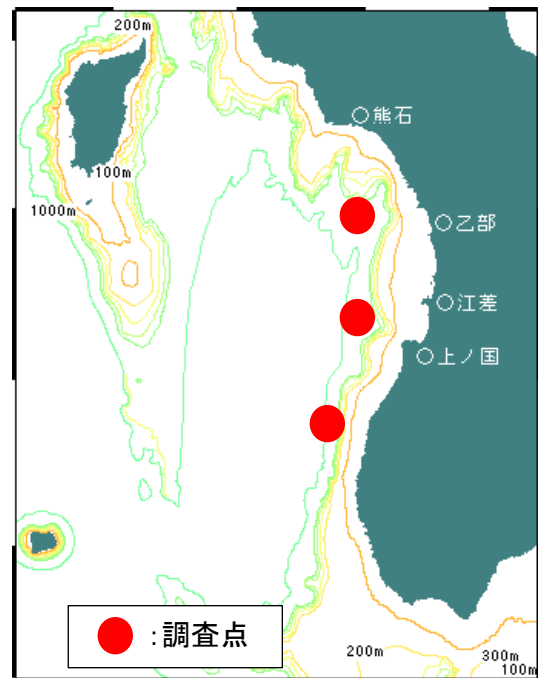
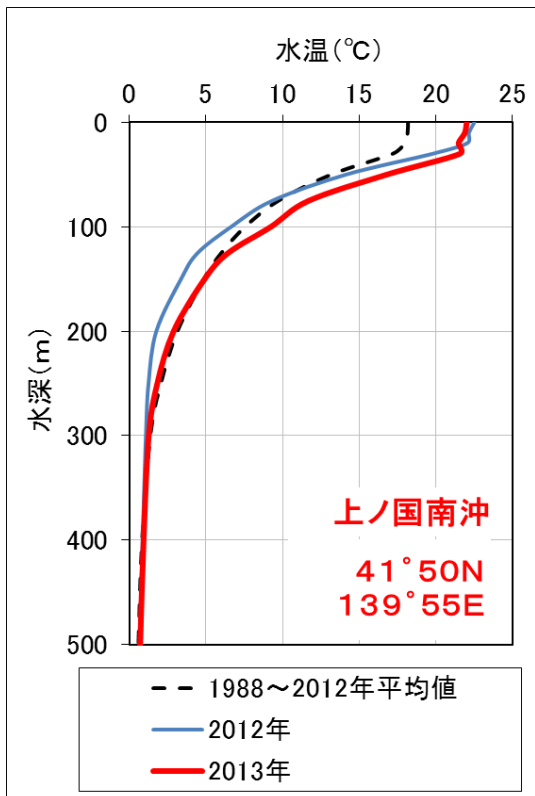
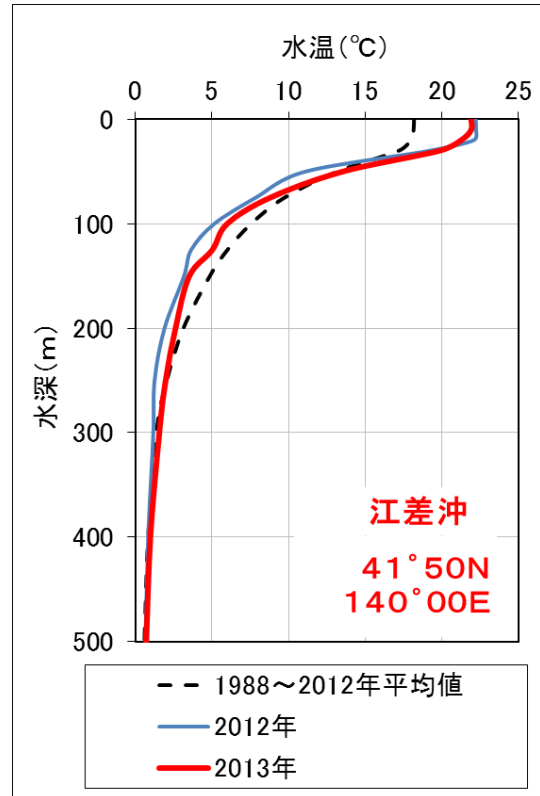
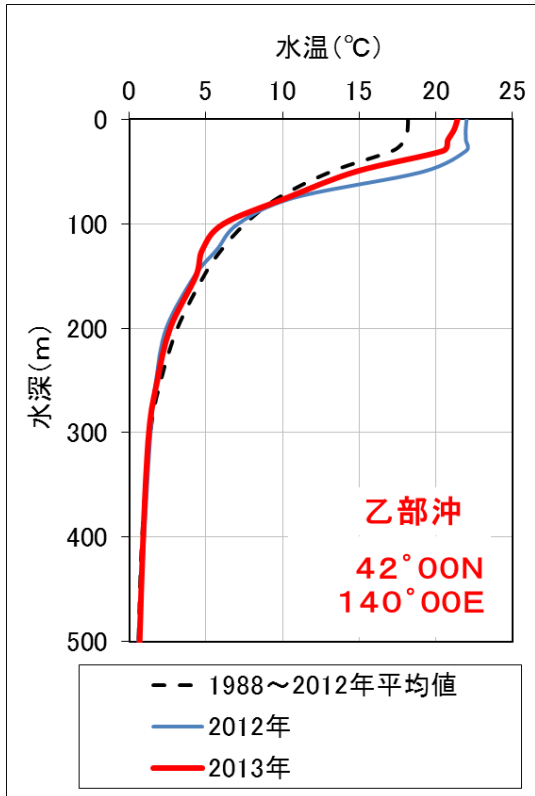


図5 乙部沖(左上), 江差沖(右上), 上ノ国南沖(左下)の鉛直水温分布と調査点位置